

室蘭民報

MUROMIN
2018年(平成30年)
3月20日(火)

発行所:室蘭民報社
〒051-0015 室蘭市本町1丁目3-16
電話0143-22-5121・FAX0143-24-1337
©室蘭民報社 2018

編集局・報道/(0143)22-5123
営業局・営業/(0143)22-5122
ご購読・チラシの申し込み
販売局・販売/(0143)22-5121
チラシセンター/(0143)22-2454

ホームページ
<http://www.muromin.co.jp>

ご法事 お祝い ご会合
お膳料理・折詰・お弁当・オードブル

勝村木仕出し店

室蘭市日の出町1-10-14 ☎44-3838

きょうの紙面

不要雑誌を無料配布 15



室蘭工業大学付属図書館で不要になった雑誌を無料配布するイベントが19日から、室蘭市中島町のふれあいサロンほっとで始まり、スポーツ誌や経済誌などのバックナンバーが人気を集めている。22日まで。

藤田さん活動に終止符 3

ノルディックウォーキングを通じて震災被災者支援をしていた伊達市の藤田隆明さんが活動7年で終止符を打つ。一定の役

ひゃっこい、枕マット開発

通販 夏号に掲載、全国販売

保冷剤のアイスジャパン(室蘭市中島町、松岡正昭代表取締役)が新商品「室蘭ひゃっこい枕マット」を開発した。常温使用で体温より7度低く感じる冷感グッズ。カタログハウス(東京)の通販雑誌「通販生活」向けの限定商品で、4月16日発行の夏号に掲載、全国販売される。特集記事も紹介される。

室蘭「アイスジャパン」



アイスジャパンの新商品「室蘭ひゃっこい枕マット」と「通販生活」



商品開発について語り合う松岡代表取締役(左)と横山マネージャー

枕に充てんされた吸熱放熱剤(硫酸ナトリウム)がポイント。吸熱性が高く、結晶状態から液状に変化する時に多くの熱を吸い取るが、この熱を吸う量と速度を調整することで、ひんやり感を維持することができる。同技術はヒット商品「くつきりプマット」にも使われているが、改良を図つ

た。冬場に固まるのが弱点だったが、「分子間に膜を張る」(松岡代表取締役)ことで克服、マットが柔らかい状態を保つことに成功した。雪の結晶のデザインをちりばめたおしゃれなパッケージが印象的。名称も工夫。業務用保冷剤でトップの同社が本社を構える地の意味

で「室蘭」を入れた。方言の「ひゃっこい」で親しみやすさを出した。カタログ社は中小企業基盤整備機構のサイトで技術を知り、依頼した。横山輝マネージャーは「購読は60〜70代が中心で、ほどよく冷やすグッズが欲しかった」と動機を説明する。夏号では1・5ページを使いアイス社と商品を紹介。同社の技術が国際宇宙ステーション日本実験棟きぼうに

「情報を共有すること」で市民協力を可能にするのは、知の拠点をともに育てる姿勢を、行政と共有できることが前提となる。市が支払う運営委託費は限られる。仮に市民サービスが向上するならば、そこで働く職員の人員削減で生み出されたサービスとなる。現在、図書館職員23人中20人までが非正規という。待遇のさらなる低下を強いてまでも、市民は「サービス向上」を果たして望むだろう。新施設は内実ともに市民が誇れる館でありたい。自立した地方創生の観点からも、行政のトップには「知の拠点」は自前で守っていく確かな文化思想が求められる。(高木忍)

論説

心言 辛言

室蘭市が2021年に環境科学館(仮称)と一体的に建て替えを予定する図書館本館の管理運営について、市教委は「指定管理者制度」導入の方針を今議会で示した。公立図書館の指定管理委託については全国的に問題点が話題となっている。地域の知の拠点」という図書館の使命に立ち返り、慎重な検討が必要だ。総務省の15年調査によると、全国の市町村立図書館(3241館)で同制度を導入しているのは495

図書館の指定管理者制度

館、15%にすぎない。日本図書館協会によると、図書館運営の継続性や安定性、専門職員の確保・育成、地域との連携などの点で難しさと課題を抱えているという。不適切な例としては理解し難い選

知の拠点、慎重検討を

書姿勢がある。購入された本が10年以上も前のパソコン関連本であったり、地元から遠い地域の飲食店ガイド本、海外の風俗店ガイドなどもあった。郷土資料の常設展示がいつの間にか廃止された館もある。度大きな課題となる。室蘭は「ふくろう文庫」など市民と結び付きが深い。市民寄贈の美術書など約6500点(約5千万円相当)に上る貴重な文庫蔵書は、将来とも丁寧な扱いと学習事業が求めら

効果的除排雪 新手法検討へ

室蘭市 協働で役割分担

人手不足など課題

室蘭市は2018年度(平成30年度)から、地域の実情に合わせた除排雪の新手法の協議に入る。行政や町内会・自治会、除排雪業者が話し合いを進め、課題を整理し効果的な除排雪体制の構築を目指す。市は「情報を共有すること」で市民協力を可能にするのは、知の拠点をともに育てる姿勢を、行政と共有できることが前提となる。市が支払う運営委託費は限られる。仮に市民サービスが向上するならば、そこで働く職員の人員削減で生み出されたサービスとなる。現在、図書館職員23人中20人までが非正規という。待遇のさらなる低下を強いてまでも、市民は「サービス向上」を果たして望むだろう。新施設は内実ともに市民が誇れる館でありたい。自立した地方創生の観点からも、行政のトップには「知の拠点」は自前で守っていく確かな文化思想が求められる。(高木忍)

あすの夕刊休みます
あす21日(水)は祝日「春分の日」ですので、夕刊は休刊とさせていただきます。ご了承下さい。
室蘭民報社

今年から蘭市生活道路で今冬は作業に再びまわります。除排雪作業は、市は作業業を中心と

